

都道府県別賞一等

つながり合う生命保険

香川県 高松市立桜町中学校 二学年

榊 絢友奈

私の祖父は、昨年、入院・手術をした。その時に初めてこの生命保険の事を知り、祖父母から話を聞いた。入院・手術をするにしても、お金がとてもかかる。しかし、毎月、支払いしている生命保険のおかげで安心して手術もでき、入院生活も送ることができたそう。治療費や入院費を気にすることなく、手術を受けられる安心感があったそう。病気になったことでも、精神的に辛いのに、お金の心配もして手術をするとなると、それだけでも精神的に負担もかかるし、家族にも迷惑をかけることになる。入院すると、手術代、治療費だけではなく、食事代、個室代、必要な物をそろえるための費用もかかるので、祖父は、若い時から、自分が入院した場合のことも考えて、生命保険、医療保険に加入していたそう。

そこで、私は、自分自身が入っている生命保険について、母に聞いてみた。私達姉弟は、学資準備のための保険に入っていると教えてくれた。学資準備のための保険とは、子供の教育資金を準備するための貯蓄型の保険で、毎月、もしくは年に一回決まった額の保険料を払うことで子供の成長に合わせた進学準備金や学資金を受け取ることができそう。さらに、親が亡くなった場合、それ以降の保険料が免除となるが、保障は、そのまま継続され、学資金も受け取ることができるとのこと。そして、私達には、医療保障もつけてくれているそう。私は今まで大きな病気をしたことがない。しかし、姉は、小学校三年生の時、病気になり、入院した。母は、その時も、医療保障をつけていたので、給付金が支払われて、とても助かったと話していた。

私の家族の保険、そして、祖父の保険の話聞いてみて、いろいろな種類の保険があることを知った。そして、その給付金を受け取ることができるのは、自分一人の力だけではなく、その保険に加入して保険料を支払っている知らない誰かなのである。私達人間は、ケガや病気をせず、保険にも頼らずに生きていけたらいいが、突然、病気や事故など、ケガをしてしまうこともあるので、何があるか分からない。そんな時のために、生命保険があるのだ。

生命保険は、知らない人同士で、保険料を支払い、もしもの時に受け取れるものである。知らない人同士だが、支払った保険料は、私の祖父や姉の助けとなり、次は誰かのためになっているのである。私はこれを知って、自分のためにも、誰かのためにもなっている生命保険は、とても素敵なものだと思った。

第59回中学生作文コンクール

だからこそ、知らない誰かが、自分を支えてくれていることを忘れてはいけな
いと思う。私は今、十四歳。生まれてから私の将来のことを考え、学資準備の
ための保険に入ってくれている両親に感謝したい。知らない人同士だが、おた
がいに支え合って、助け合って協力しているのだと思うと、私達の暮らしに生
命保険は、かかせないものなのだと思った。自分自身のため、そして、誰かの
ために、保険料を支払う生命保険のことをもっとよく考えていきたいと思った。